

平成 27 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016/03/20

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

|                                  |             |
|----------------------------------|-------------|
| 講座名・職名<br>Course Title・Job Title | ヨーロッパ I・准教授 |
| 氏名 Name                          | 岡本 真理       |
| 専門分野 Academic Field              | ハンガリー言語社会論  |

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 主たる研究テーマ<br>Principal Research Subject  | 近代ハンガリーの国民形成運動における国民劇場の役割 |
| <p>近代前半のハンガリーにおける国民形成運動における国民劇場を中心に研究を行った。対象とする時代を 1837 年の劇場設立から 1848 年革命とそれに続く独立戦争までに限定し、その 10 年あまりの国民劇場の変化を明らかにした。その方法として、この時期の国民劇場のプログラム資料から具体的な情報を読み取り分析した。公演の演目と配役以外に、事態に応じてさまざまな情報についても検討した。演目からは、特に圧倒的に翻訳作品が多かった初期に比べて、ハンガリー語のオリジナル作品が増えていく様子を読み取り、配役やその他の情報からは劇場の運営のあり方、とくに 1848 年革命がもたらした影響を探った。ハンガリーの国民劇場 (Pesti Magyar Színház, 1840 年から Nemzeti Színház) は、ハンガリー王国内における最初の本格的なハンガリー語常設劇場として 1837 年に当時のペシュト (現在のブダペシュト) に設立され、大貴族から中産階級そして職人や農民にいたるさまざまな社会階層の市民が一堂に民族語で演劇文化を享受した唯一の公空間であり、19 世紀のロマン主義的国民形成期のハンガリーにおいて非常に重要な場であったことが明らかになった。</p> <p>また、ハンガリー語教育に関する研究活動として、第 12 回国際フィン・ウゴル学会 (フィンランド・オウル大学開催, 2015 年 8 月 22~27 日) に参加し、ハンガリー語教育に関する分科会で研究発表と討論に参加した。発表は、<b>Motivation making in minor language education: A case of Hungarian in Japan</b> と題し、英語偏重の著しい日本の外国語教育の現状に触れつつ、少数言語を大学で学ぶモチベーションの向上のために報告者が実践している「2ヶ国語事典」作成プロジェクトについて紹介した。ただ言語的知識を一方的に享受するだけではなく、その言語を使って自国の文化について発信する活動を通して、目的言語の社会に貢献するという能動的な活動が、言語を学ぶモチベーションにつながることを指摘した。本報告に関連して、エストニアで発行されている応用言語学雑誌 <i>Lahivordlusi</i> に <b>Generating motivation in minor language education: A case of Hungarian in Japan</b> と題した論文を投稿し、現在査読中である。</p> |                           |